あなたと病院をつなぐ健康ニュース　vol.290

おだいじに！

2026
5
TAKE FREE

特集
■消化器内科
■内視鏡検査を受けてみませんか？「安心」は健康の第一歩

日本医療機能評価機構認定病院／基幹型臨床研修指定病院
公益財団法人
総合病院
浅香山病院
〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号
電話 072-229-4882(代)
https://www.asakayama.or.jp

消化器内科

身体と心に負担の少ない快適な内視鏡検査
確かな技術で早期発見・早期治療を目指す

●消化器内科の診療

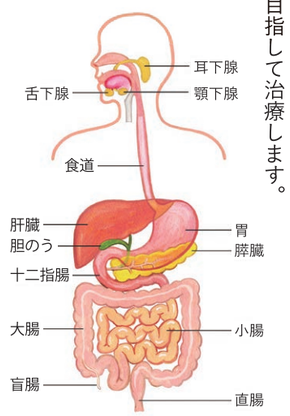
消化器内科では、胃や腸、肝臓、膵臓など食べ物の消化や吸収に関わる臓器（消化器官）を専門的に診察しています。

お腹の痛みや張り、下痢、便秘、胃もたれなどの原因を各種検査で特定し、早期回復を目指して治療します。

●消化器内科の特徴

消化器内科では、8名の常勤医師と経験豊富な医療スタッフが連携して内視鏡検査や治療などを行なっています。また、救急医療の一環として消化管出血や異物誤飲など緊急の内視鏡検査にも対応し、地域の救急医療の貢献に向けて尽力しています。

潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患に対する生物学的製剤やＪＡＫ阻害剤などの先進治療も行なっています。



●代表的な疾患

【胃・大腸の疾患】

逆流性食道炎、早期胃がん
大腸ポリープ・早期大腸がん
潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患
消化管出血、異物誤飲など

【肝胆膵の疾患】

慢性肝炎、肝硬変、胆管結石
急性膵炎など

内視鏡検査ってどんな検査？

内視鏡検査とは、先端に小型カメラを内蔵した細く柔らかい管（スコープ）を挿入し、**食道・胃・十二指腸・大腸の内部を直接観察する検査**です。

レントゲンやエコー検査などと比べても、粘膜のごくわずかな変化を捉えることができ、炎症や小さなポリープ・初期のがんなども早期の発見が可能です。

内視鏡は臓器の内部を直接観察するだけではなく、病変の一部を採取（生検）して病理検査による確定診断を行なうことができます。他にも、異物摘出・止血・ポリープ切除など、さまざまな病気の治療を内視鏡で行なっています。

☆内視鏡システム☆

当院ではオリンパス社製の内視鏡システムを導入しています。高解像度（４K画像）の画像モニターを使用することで、より精度の高い診断と治療を行なうことができます。

画像提供：オリンパスマーケティング株式会社

☆主な検査の種類☆

◎胃カメラ（上部消化管内視鏡検査）
▶鼻または口から管を入れ、食道や胃、十二指腸を調べます。

◎大腸カメラ（下部消化管内視鏡検査）
▶肛門から管を入れ、大腸全体を調べます。

代表的な疾患と内視鏡治療の主な例

早期胃がんとは

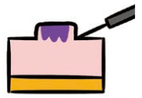
胃の粘膜から発生するがんで、がんが粘膜またはその下の粘膜下層にとどまっている状態を指します。胃がんのうち、がんが粘膜内にとどまる場合は**ESD治療の適応**となり、**高い治癒率が期待**できます。**自覚症状が乏しく進行しても症状が出にくい**特徴があります。

ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）とは

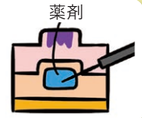
早期がんであれば **ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）**は、**がんが存在する粘膜病変部のみを切除**するため、**お腹を切らずにすみ**体の負担がより少ない、**胃の機能低下が起こりにくい**といったメリットがあります。

※内視鏡治療の適応となる早期胃がんには条件があります。

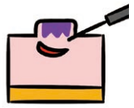
①マーキング
内視鏡を胃内に挿入し、病変の周辺に切除範囲の目印をつける。



②局注
粘膜下層に薬剤を注入して病変を浮き上がらせる。



③切開
目印を取り囲むようにナイフで病変周囲の粘膜を切開。



④粘膜下層の剥離
専用ナイフで病変を少しずつ慎重に剥ぎ取っていく。ナイフを使って最後まで剥離するか、最後にスネアを使って切り取ることで病変部の切除が完了。

⑤回収・止血
切り取った病変部は回収して病理検査に提出。
切り取った後の胃粘膜の表面に止血処置を施して終了。

鎮静剤を使った内視鏡検査

内視鏡検査は、「痛そう」「苦しそう」という怖いイメージがありますが、現在は鎮静剤（眠くなるお薬）で「苦痛が少ない」検査が主流となってきました。内視鏡検査に不安がある方も安心してご相談ください。

メリット

- 検査に伴う苦痛や不安を軽減できる
- 患者さまが動かずリラックスした状態を保てるため医師が時間をかけて微細な病変を観察できる

デメリット

- 検査後1時間程度は、覚醒するまで休む必要がある
- 当日は車やバイク、自転車の運転ができない
- 血圧の低下やアレルギー反応がでる可能性がある

新しい鎮静剤の導入

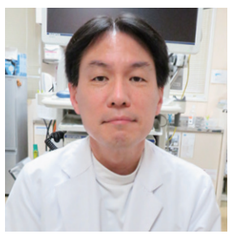
当院では、患者さまに苦痛なく安全に胃カメラ・大腸カメラを受けていただくために、**2026年3月から「レミマゾラム」という新しい鎮静剤を使用**しています。従来のものと**薬効は同じ**ですが、**作用時間が非常に短く内視鏡終了後、数分で覚醒できる**ようになります。

※現在、患者さまの鎮静剤の効き具合を記録・比較し、より安全で確実な内視鏡検査の基準作りに役立てるための臨床研究を行なっております。検査を受ける際は、ご協力いただけますと幸いです。

Doctor's Voice

消化器内科では、食道から大腸、肝胆膵まで幅広い疾患を診療しています。
特に力を入れている内視鏡検査では、皆さまの苦痛や不安を最小限に抑え、より安全で快適に検査を受けていただけるよう、鎮静などの工夫に努めています。

胃がんや大腸がんは早期発見・早期治療が何より重要です。
当院では、堺市胃がん健診（胃透視や内視鏡検査）・大腸がん検診（便検査）にも対応しています。定期健診の時期が来ている方はもちろん、少しでもお腹の不調を感じたり、健診で異常を指摘された際は、お気軽にご相談ください。



内科統括部長
野口（のぐち） 篤志（あつし） 医師

内視鏡検査を受けてみませんか？「安心」は健康の第一歩

ーご安心ください。私たち、内視鏡看護師がついていますー

年齢とともに胃がん・大腸がんのリスクは高くなります。初期段階だと自覚症状がみられず気付いた頃には進行しているケースも少なくありません。そのため、症状がなくても定期的に検査を受けることが早期発見へとつながります。

内視鏡検査と看護師の役割

検査前には、既往歴（これまでのご病気）や服薬歴などの情報をもとに、スタッフ間で十分な打ち合わせを行なっています。前処置や検査などは看護師ごとに担当を分け、安全で確実な検査を提供するため、それぞれが入念に準備を行なっています。

検査内容や鎮静剤についての説明には特に配慮しています。わかりやすく丁寧な説明を心がけ、患者さまが安心してリラックスできる雰囲気づくりに努めています。

検査中は、血圧・脈拍・呼吸状態の観察を行なうとともに、医師が円滑に検査・治療を進められるようサポートしています。また、体の向きの調整や検査進行に応じたお声がけをし、できるだけ苦痛を軽減できるよう配慮しています。

当院では、胃カメラ・大腸カメラともに、検査時に使用する空気を炭酸ガスに置き換えています。炭酸ガスは体内に吸収されやすいため、検査中や検査後の不快感の軽減が期待できます。

検査後は内容に応じた注意点を患者さま一人ひとりに合わせてご説明します。鎮静剤を使用された方には、リカバリーベッドで体調が落ち着くまでゆっくりお休みいただけます。安全にご帰宅いただけるよう、しっかりとサポートいたしますのでご安心ください。

内視鏡センター 宇野師長より患者さま・地域の皆さまへメッセージ

当院の内視鏡センターには、日本消化器内視鏡技師学会認定の**消化器内視鏡技師資格を有する高い専門知識と技術を備えた看護師が７名在籍**しており、専門性を活かしたより安全で確実な検査の提供に努めています。医師、看護師をはじめ多職種での連携を図り「浅香山病院で内視鏡検査を受けてよかった」と思っていただけるよう、全スタッフ一丸となり日々の業務に取り組んでいます。